

# 共助

自助の課題を克服・  
困ったときはお互いさま



自警団消火訓練(川原区・出石地域)

## 自分たちでできることは自分たちでやる ～下陰区の取組み～



下陰区長 西村充春さん

炎士になりました。

平成19年には、それまで自警団に委託していた自主防の運営に、区の役員が参画し、区全体の組織づくりを進めました。防災訓練(避難、炊き出し、避難所立上げ、消火器

改修前の前川は氾濫が多く、下陰は水害には関心の高い区でした。平成16年の台風23号でも、千世帯のうち、およそ半分が床下・床上浸水の大きな被害を受けました。この出来事が、自主防災組織(自主防)に注力するきっかけになりました。平成18年に副区長を受けたとき、災害知識がありませんでした。区長に相談し、県の防災リーダー講座を半年間受け、防

操作、土のう積み、救助など)や災害図上訓練、救急救命講習を3本柱として毎年訓練をしています。

区内を6ブロックに分け、それぞれに組長を配し、区の災害対策本部と連携しています。各組では、それぞれの隣保長や自警団、福祉委員とも連携しています。

副区長が自主防の運営実務の責任者となり、自警団と協力し、訓練の運営企画を担っています。育成会との連携で、子どもの参加も増えてきました。災害対策には「自分たちでできることは自分たちでやる」という気構えで取り組んでいます。今後は、他区や中学校と協力し、避難所の運営訓練に取り組みたいです。



▲本番さながらの訓練

## 共助の限界

若者の都市部への流出や人口減少などで、山間部では過疎化が進んでいます。

本市でも、約半分の区で55歳以上の人口が50%を超え、中には2戸、3戸の区や高齢者だけの区もあります。

そのような小さな区では、組織的な活動が困難となってきました。共助にも限界があります。そこで、台風の接近や大雨が予想される場合は、事前に安全な場所(避難所、親類や友人の家など)に避難することや隣の区と情報共有することが有効です。

### 《本市の限界・準限界集落の区数》

区分	平成17年(A)	平成26年(B)	増減(B-A)
限界集落	9	23	14
準限界集落	60	169	109

- ※人口は各年(4月1日現在)の住民基本台帳数値を使用
- ※限界集落とは65歳以上の人口比率が50%を超える集落
- ※準限界集落とは55歳以上の人口比率が50%を超える集落

《支え合いマップ》



※イメージ

「支え合いマップ」で共助

誰もが住み慣れた地域で安心して、その人らしく暮らせるように、住民による支え合いを育み、災害などさまざまな課題に強い地域になるための取り組みとして「支え合いマップづくり」を推進しています。

これは、住宅地図を利用して住民の関わり合いの実態を線で結んでいく作業です。その過程から浮かび上がってきた地域の課題について解決方法を検討していきます。これを通して、住民同士による共助がさらに強まることを目指します。

《問合せ》豊岡市社会福祉協議会  
 議会地域福祉課地域福祉係  
 ☎ 23 1 2 5 7 3

「孤立した、

しかし孤独ではなかった」

台風23号で甚大な被害を受けた地域に移り住んでいた夫婦の言葉です。真夜中に堤防が決壊をして2階まで水が来て、2人で心細い朝を迎えました。

夫婦は、お互いを励まし合いながら頑張りました。夜中に防災行政無線で市長の声が聞こえました。朝になると、近所の人がいかに乗って食料や水を届けてくれました。

地域コミュニティの強化

水が引き始めると近所への助け合いが始まりました。やがて遠方に住む友人たちもやって来ました。

普段の隣近所との付き合い、コミュニティ、小学校単位での運動会―その一見たわいもないことが、いざというときに皆さんを救います。

本市では『コミュニティ崩壊の危機』を重要課題と位置付け、現在の区での地域づくりに加え、地区公民館の範囲での「新しいコミュニティづくり」を検討しています。

公助

国・県・市では、さまざまな取り組みを進めています。

- ① 円山川や出石川、奈佐川、稲葉川などでの河道掘削や堤防の強化
  - ② 北近畿タンゴ鉄道の円山川架橋や鳥居橋の架け替え
  - ③ 中郷や日高町赤崎での新たな築堤
  - ④ 八代・城崎・豊岡・六方川・桃島の各排水機の整備
  - ⑤ 新しい鶴岡橋の整備
- が行われました。

県では、気象庁の降雨予測データを基にした河川氾濫シテムの整備を進めています。

市の防災力を強化

■土砂災害予測システムの導入

市は県などと共同で、土砂災害が発生する危険度を判定し、素早い避難に役立ちます。市は、危険箇所、ペットボトルを利用した簡易雨量計を設置しました。

■防災情報システムの導入

市役所の新庁舎建設を機に、本庁や各支所、消防本部で情報を共有し、災害に適切に対



▲簡易雨量計

■出前講座や防災ワークショップ

風水害、地震、自主防災組織について、市内の各地区で開催し、防災意識の高揚に努めています。

600本のバラ

台風23号災害から1カ月後、600本のバラが豊岡市役所に届きました。豊橋市のバラ愛好家の方が送って下さいました。

その頃、世間の関心は圧倒的に新潟県中越地震にっていました。「もう忘れられたと思っていた」一避難所の人々は公衆電話で、送って下さった方に涙を流しながら感謝の言葉を述べました。

市役所にも生けました。災害復旧で疲れ切り、心のゆとりを失っていた職員が、笑顔を取り戻しました。

災害から10年目の今年8月。市役所に同じ愛好家の方からバラが届きました。

私たちが懸命に取り戻そうとした『日常』。多くの人や自治体が、私たちが応援して下さいました。

私たちは、支えられています。誰かにとって私たちも、そうでありたいです。

